

令和3年度



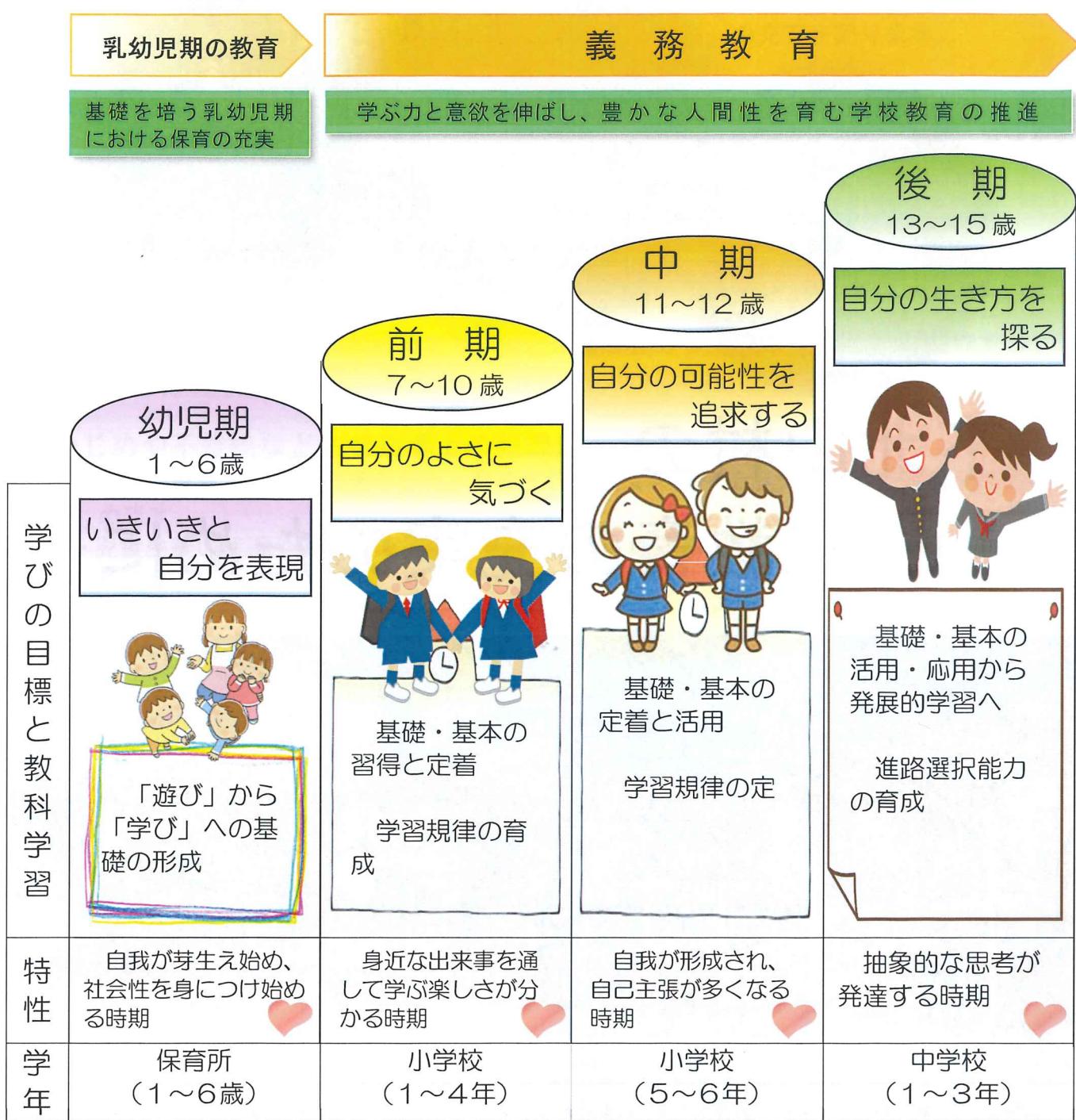
下北山村の 教育の充実のために



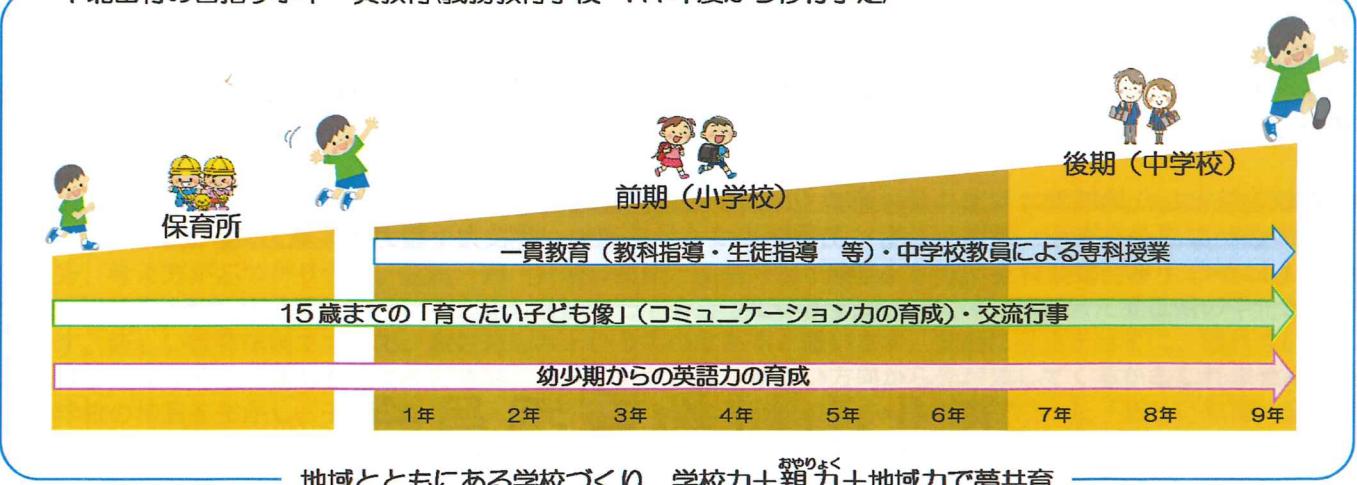
- 保小中学校職員が、15歳までの「育てたい子ども像」を共有し、一つの校舎で学ぶことによって、生きて働くコミュニケーション力（村外に出ても通じる会話力や社会性）を身につけさせ、15歳での自立を図る学校。
- 子どもたちが大きな夢をもち、その夢をかなえることができるよう、発達段階に応じて15歳までの一貫性のある指導を行い、確かな学力を身につけさせる学校。
- 学校を核とした地域のコミュニティをつくり、学校と保護者や地域の皆様が、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支え、地域とともにある学校づくりを進め、学校力+親力+地域力で、子どもたちの夢をともにかなえる、夢共育を実現する学校。

下北山村教育委員会

学びのステージに応じた教育



下北山村の目指す小中一貫教育(義務教育学校 R4年度から移行予定)



新たに取り組むこと、これからも重視すること

●本人のための教育

- ・9年間の学びをつなぐ一貫した指導で、一人一人の「学ぶ力」「生きる力」を育む、本人のための教育を行います。

●中学校教員による専科授業

- ・小学校3年生以上の学年で、中学校教員による「音楽、図工、家庭科、体育」の専科授業、小学校6年生では、「国語、社会、算数、理科、外国語（5年生も対象）」も専科授業を行います。

○学びに向かう力の育成

- ・授業準備、あいさつ、学習態度等の学習規律とともに、主体的にあきらめずに挑戦する力を育みます。

○道徳教育

- ・自分ごととして「考え、議論する」授業などを通じて道徳性を育みます。
- ・規範意識の向上や公共心の育成を図ります。
- ・いじめを許さない心情や態度の育成を図ります。

○外国語教育

- ・幼少期からの指導計画を作成し、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の力を総合的に育みます。

●プログラミング教育

- ・プログラミング学習ソフト「スクラッチ」、「ビスケット」、アンプラグド学習などにより、コンピュータがプログラムによって動き、社会で活用されていることを体験し、試行錯誤しながら学習することを通して、「プログラミング的思考」を養います。
- ・一人1台のタブレットを活用、各教科等を通じて、児童生徒がコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段に慣れ親しみ、コンピュータで文字を入力するなどの基本的な操作や情報モラルを身に付けることができるようになります。
- ・SNS等を通して犯罪被害やトラブルに巻き込まれることのないよう、インターネットを安全・安心に利用するための能力（インターネットリテラシー）の向上に取り組みます。

○言語能力の育成

- ・国語を要として、すべての教科等で子どもたちの言葉の力を育みます。

○理数教育

- ・観察、実験などにより科学的に探究する学習活動や、データを分析し、課題を解決するための統計教育を充実します。

○特別支援教育

- ・幼稚期から高等学校段階まで、全ての学校で障害に応じた指導を行い、一人一人の能力や可能性を最大限に伸ばします。

●安全教育の推進

- ・安全に関する各種教室や、より実践的な訓練等の実施を通して、園児児童生徒に危険予測・危機回避能力を身に付けさせるための「安全教育」の充実を図ります。

○人権教育の推進

- ・すべての教育活動を通して、自他を大切にし、お互いの生命・人権を尊重し、差別を許さない心と実践力を育みます。

○学校保健活動の取組の推進

- ・食物アレルギー等、健康面に特別な配慮を要する児童生徒への対応については、医師の診断に基づく学校生活管理指導表を活用するとともに、危機発生時の対応マニュアルを整備するなど、全ての教職員が学校保健に関心をもち、校内組織が十分に機能する学校保健活動の取組を推進します。

○いじめや不登校など生徒指導上の諸課題への取組の徹底

- ・いじめを重大な人権侵害と捉え、児童生徒の社会的ナリテラシーや規範意識の向上に努めます。
- ・児童生徒の状況や保護者の求める支援を的確に把握し、適時かつ適切な支援の充実に努めます。

教職員の資質・能力の向上

アメリカの教育学者のウィリアム・アーサー・ワードは、「凡庸な教師はただ話す。よい教師は説明する。優れた教師は自らやってみせる。そして、卓越した教師は心に火をつける。」と言っています。

- ・学校教育の質の維持向上を図るために、子どもたちの心に火をつけるような、優れた指導力と使命感を兼ね備えた教職員の育成が不可欠です。そのため、教職員同士が学び合い、高め合う機会を充実します。
- ・教材研究・指導の準備・評価などにICTを活用する能力、児童生徒のICT活用を指導する能力の向上を図ります。

学んだことを人生や
社会に生かそうとする
学びに向かう力、
人間性など



未知の状況にも
対応できる
思考力、判断力、
表現力など

社会に出てからも学校で学んだことを生かせるよう、
三つの力をバランスよく育みます。

教育長メッセージ

「新しい教育をめざして」

いよいよ小中一貫教育が新校舎で始まりました。新しい組織で、学校教育が運営されます。組織の発達段階には4つの状況があると言われています。①形成期…メンバーが決定し、関係性を築いていきます。②混乱期…考え方、考え方があつかり合う。③統一期…共通の規範、役割分担が形成されてくる。④機能期…チームとして機能し、成果を出してくる。いろいろと話し合いをしてもらっていますが、組織は、まだまだ混乱期の中だと思います。新しい教育体制ですので、産む苦しみというものはあると思います。安易に妥協をせずに、譲れないところは言葉を尽くして話し合ってください。思っていなかつた新しい方向から光が差してくるかもしれません。小中学校の特長を生かし、子どもたち一人ひとりを見つめ、教職員の皆さんのお恵みを絞った「新しい教育」を期待しています。

下北山村教育委員会教育長 松田 洋一